

○第2回安曇野市緑の基本計画推進協議会での主な意見

【重点テーマ2（緑化の推進）】

- ・植栽管理という行為自体に価値がある。ゴーラウンドガーデンを例に、小さい区画から試しに沿道緑化に取り組めばよい。
- ・川沿いや広い場所であれば安曇野はススキをうまく使えば、高さなどサイズ感をコントロールしていけば面白い。
- ・安曇野市全体のエリアごとの色や花のイメージなどのグランドベースになるデザインコンセプトはあるのか。全体のエリアごとのイメージを決めずに点々とした場所のことだけではまとまりがなくなる。
- ・ラミウムはどんどん大きくなる植物で面倒な手入れはいらない。ヒメイワダレソウは日差しに強く広がる力も強い。ミツバチも寄ってきて管理しやすい。
- ・花を愛でてほしいという気持ちは良いことだが、環境に合った花を植えることは大事。
- ・あぜ道を見てみるとクローバーがきれいで色合いは落ち着く。エリアごとのイメージを作るのは良い気がする。
- ・これからは植物との共生の時代なので、虫との共生も考えてほしい。
- ・必要に応じて基本理念の見直しも必要ではないか。連なる緑は本計画の最も大切な視点であるが、屋敷林は管理が大変であり代替わりで保存が難しい。守るのであれば助成が必要。

【重点テーマ3（緑地を活かした恵みを感じる活動）】

- ・これからボランティアを活用してくなら、ギブアンドテイクの関係をうまく利用していく必要がある。世代交代も考えていかなければならない。
- ・一般の感覚では公園は市の管理であるため、何かあれば苦情だけ言ってあとは市が対応する考えだが、地域の公園は自分たちが管理するという考え方に変えていく必要がある。
- ・ボランティアとして人気があるのは焼き芋会。落ち葉を拾うと焼き芋と交換（楽しいことが待っている）できるという分かりやすい環境。例えば年に4回似たイベントを開催してみたりしては。
- ・ラジオ体操、納涼祭、防災訓練など、公園は区になくてはならないものであり、自分たちで管理しなければならないという意識がある。公園を使わせてもらっている
- ・親しむ気持ちがあればボランティアにつながるのでは。
- ・後期の事務局案に「区と協議し」とあるのは良いと思う。公園でなにをしたいかのアイデアを公募しなければ、面白いアイデアは出てこない。
- ・コンテスト開催＝緑化推進になるか疑問。個人の作品に順位をつける必要はない。情報発信が大事。
- ・家の庭では規模に差があるが、自分なりに管理している。気持ちを活かす方が大事。ベランダに少し花があることだって緑を愛していることになる。
- ・計画策定時には、きっかけづくりとしてコンテストという案があった。伊那市の例では、公共の場で花壇づくりを自治会で行いコンテストを行った。コンテストがなくなった後も、管理は続けてくれている様子。きっかけづくりは良いのでは。
- ・子どもを対象にエリアごとのアイデアコンテストを行えばどうか。作業ができない人もアイデアであれば参加できる。出たアイデアを使って花の植え付けなどのボランティアにつなげる。○周年記念イベント開催など継続的に管理していける環境を作ればよい。公園や花壇は作って終わりではなく管理できる体制を考えないと意味がない。

【重点テーマ4（身近な緑の育成事業）】

- ・基金について、先の計画に持ち越した方が良いかもしれない。策定当時はとにかくお金が足りないとの意見であったが具体的な内容は詰めていない。
- ・屋敷林に安曇野のイメージはない。屋敷林を全部残そうとすれば安曇野市の税金全てなくなってしまう。
- ・市民のために屋敷林管理の基金を募るのか、観光客の景観のために基金を募るのかで視点が変わってくる。緑の計画は、地域の人がつながる緑、来てもらうための緑、使うための緑など視点がバラバラ。目的を明確にしてから基金などの話。
- ・屋敷林の目的は防風林。屋敷林は古く傷んでいる場合がほとんどで、実際風が吹いたときに安全とは言えず伐採することがある。今の家は風に強いので、小さな木を植えれば十分。屋敷林はなくなる傾向にあると思う。
- ・屋敷林全部を残すことは出来ないなので、保存する組織を作るなりして補助して残していく。緑の計画ではなく、安曇野市全体の計画として考えるべきことなので、推進委員会で話す内容ではない。市全体の景観の話。
- ・形だけでなく記録を残しておけば将来に残す資料になる。
- ・学校教育などで対応することも大事だと思う。小学校の花壇づくりでは、草取りなどは教師やPTAの仕事。枯れるまで子供に管理させることが大事だと思う。
- ・市民の「どうせ公共物は自分のものではない」との意識が問題。地区で管理しギブアンドテイクで公園の剪定木をもらうなど、公園は市民のものという意識が大事。今の意識は、公園は市の管理だから市が全部やってくれるという感覚。市で太い木をまとめて保管しておいて市民に配布できれば良い。
- ・あくまで管理者がいるうえで、業者が公園を管理して、その間にボランティアがいる3段階のシステムがあればよい。今は市と業者のみで間がないため、市民は外で要望や苦情を言いたい放題している。参加する環境があり、グループを少しずつ増やしていけばよい。困ったら市がバックアップできればよい。